



読者調査連動シリーズ企画 「CAD利用動向調査」

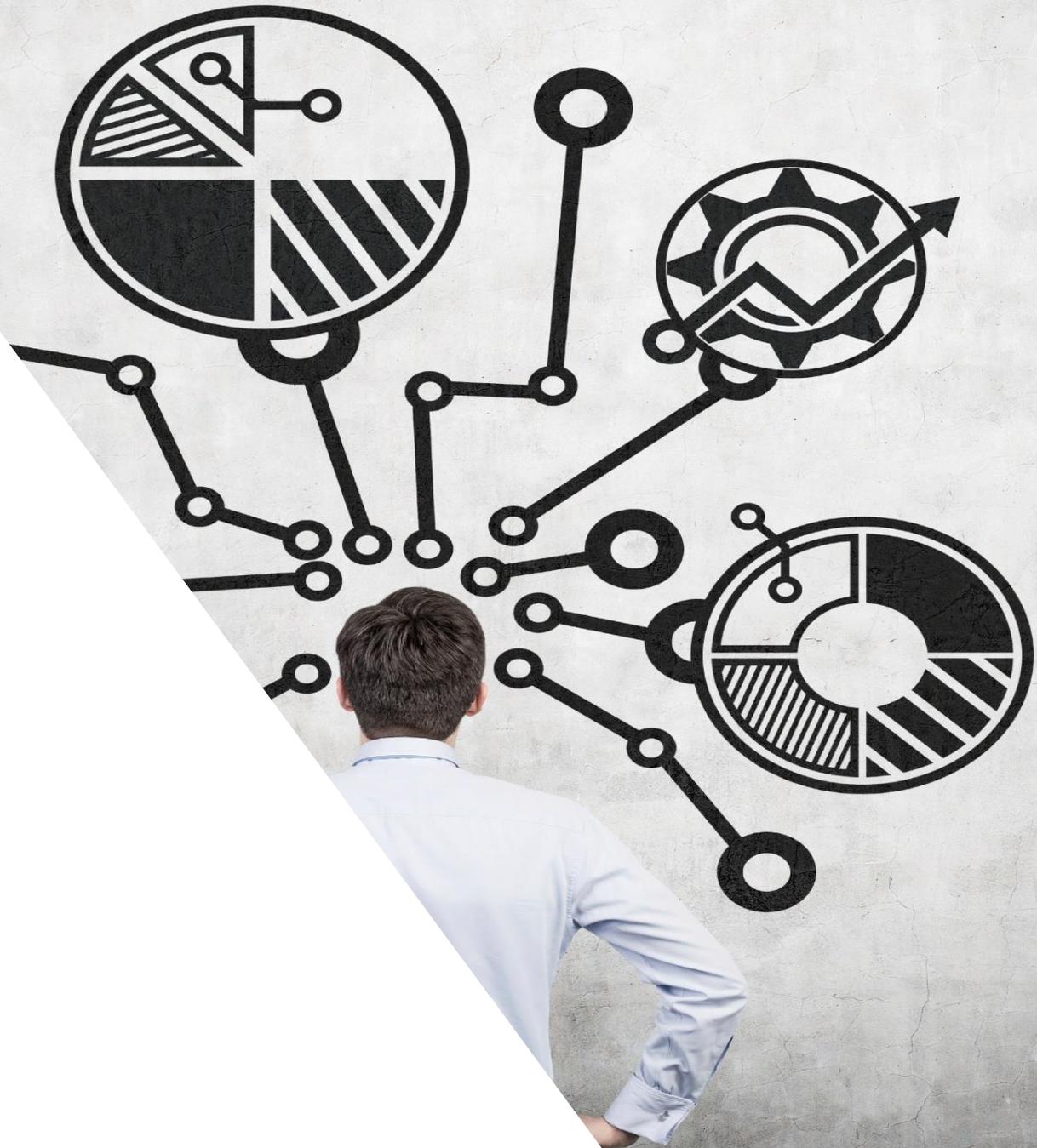
お申込締切

プラチナ/ゴールドプラン：2022年6月10日（金）

シルバープラン：2022年6月17日（金）

アンケート実施予定：2022年6月上旬～2022年7月上旬

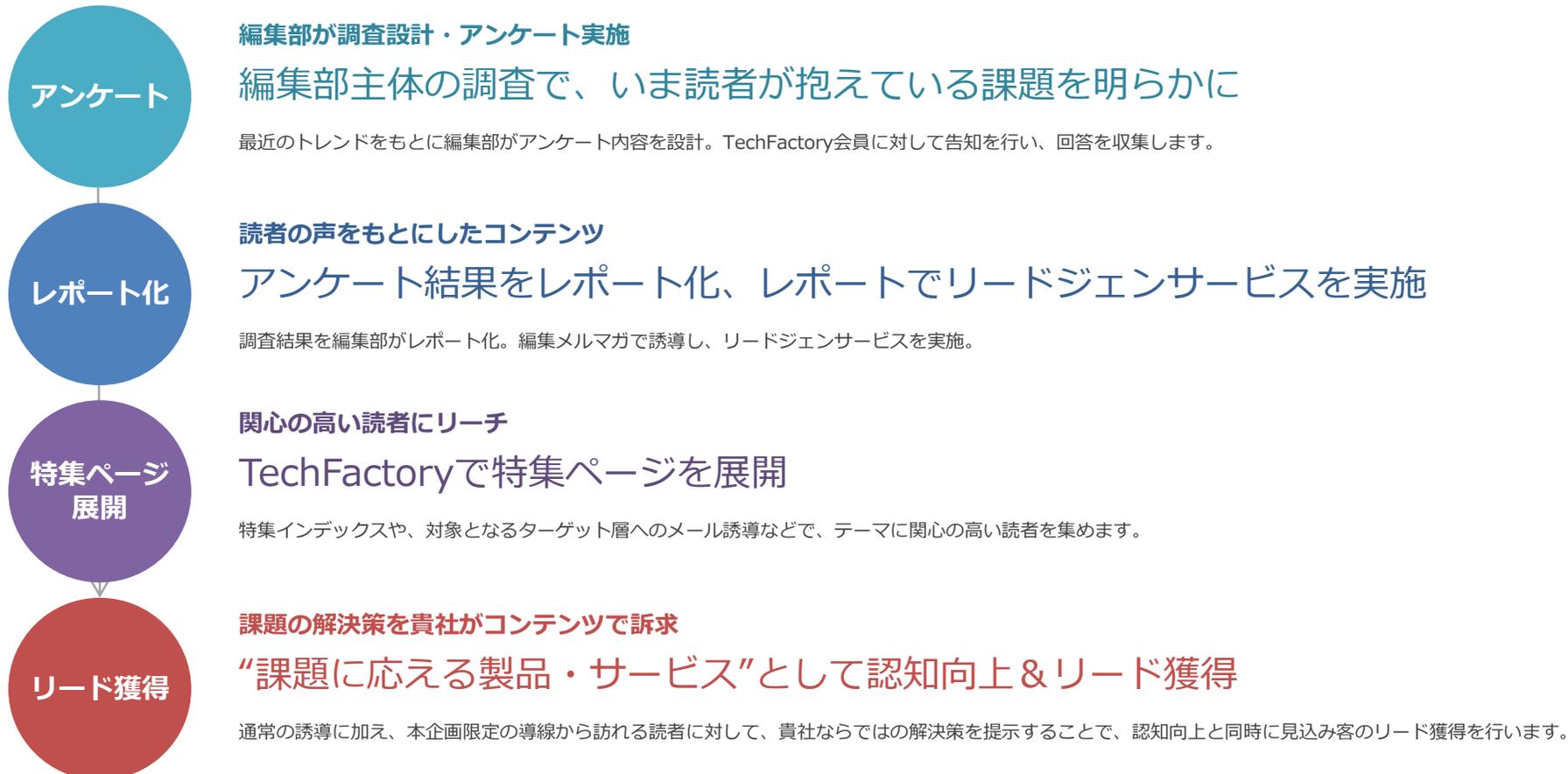
キャンペーン期間予定：2022年7月26日（火）～2022年9月26日（月）



読者調査連動シリーズ企画 ～ 製造業の現場で起きている課題と、その解決策

本企画は、TechFactory編集部がテーマを変えて実施する読者調査と連動した広告特集です。協賛企業様には、特集ページへのコンテンツ掲載、並びに調査レポートからの誘導など「課題に応える製品・サービス」としての認知向上と、リード獲得を実現することができます。

企画の流れ





コンテンツなしでもリード獲得可能

アンケート結果をレポート化。そのレポートでリードジェンサーサービスを実施。
製造業向けのコンテンツなしでも興味・関心の高いリード取得が可能です。



調査レポートからの誘導

編集メルマガによる特集告知・調査レポートへの誘導を実施。
編集部作成の**調査レポートからの貴社コンテンツ誘導**も実施いたします。



お得なプラン

最大90万円OFFのプランをご用意。
本企画限定の特別価格でご提供いたします。

製造業の設計者にCAD利用の課題やリプレースの予定など実態を調査

製造業に従事する設計者を対象に、CADの利用動向調査を実施いたします。職場で使用しているCADツールや使用年数、リプレースに関する意識、2Dから3Dへの移行状況を調査いたします。

また、リモートワークなどの新しいワークスタイルへの取り組みや設計現場が直面している課題、今後設計者に求められるスキル・知識、期待・関心の高いテクノロジーなどについても調査を実施。モノづくり設計者のリアルな現状を浮き彫りにします。

アンケート項目（案）

■ 職場で主に使用しているCADツール【複数選択可】

AutoCAD LT、AutoCAD、Jw_cad、EASY DRAW、図脳RAPID、IJCAD、自社開発の2D CAD、DraftSight、Solid Edge 2D Drafting、TurboCAD、Vectorworks、Tinkercad、123D Design、図脳CAD 3D、Fusion 360、Rhinoceros、SpaceClaim、iCAD/MX、iCAD/SX、ZW3D、I-DEAS Pro/ENGINEER、Inventor、Solid Edge、SOLIDWORKS、Creo、NX、CATIA V5（それ以前含む）、CATIA V6/CATIA 3DEXPERIENCE、自社開発の3D CAD、その他（ ）

■ CADツールのリプレイスに関する意識

最先端の設計機能が使える
性能や操作性が良い
CAEやCAMなどのツールが付属している
カスタマイズ性
価格が安い
柔軟なライセンス形態
保守サポートが充実している
既存資産を流用・有効活用できる
2次元との連携／図面機能が充実している
2次元中心の設計から3次元への移行のしやすさ
データ共有・情報共有のしやすさ
ユーザー会・コミュニティーが活発である
口コミや業界内での評判
現在使用しているツールに不満がある
その他（ ）

■ 職場で主に使用しているCADツールのリプレイスの予定

半年以内にリプレイスしたい
～1年以内にリプレイスしたい
～2年以内にリプレイスしたい
リプレイスの予定はない
分からない

■ 主な業務における2D CADの利用比率

100%
99～80%
79～60%
59～40%
39～20%
19～1%
0%

■ 職場での3D CAD活用の実情

2次元から3次元への移行が完了している
3次元への移行はほぼ完了しているが、2次元の運用も残っている
今まさに移行途中である
移行に向けた検討を開始している
3次元への移行の予定はない

■ 直面している現場課題について【複数選択可】

リソース不足
設計スキル低下
設計品質が悪い
設計ミスによる手戻りが頻発している
納期が厳しい
品質要求が厳しい
急な仕様変更が多い
解析に関する知識不足
コミュニケーション不足
デザインレビューの精度が低い
データ変換やデータ連携に手間が掛かる
流用設計が多く、新規設計をする機会が少ない
3Dで設計しているのに3次元図面を活用し切れていない
ソフトウェア／ツールの性能・機能不足
ハードウェアの性能不足

※アンケートの設問は、予告なく変更となる場合がございます

特集ページ展開

- 編集メルマガで特集告知
- バナー広告による特集告知

編集部が作成した調査レポート、並びに貴社コンテンツを特集インデックスページに掲載します。編集メルマガでの特集告知、TechFactory上でバナー広告を掲載することで製造業読者に広く特集を告知いたします。



特集ページイメージ

テーマに関連する編集記事

バナー広告

PDF版調査レポート

貴社コンテンツ紹介

活発に情報収集する読者へのメール配信

リード獲得

- 調査レポートによるリード収集
- 貴社コンテンツによるリード収集

「調査レポート」もしくは貴社コンテンツを用いて、テーマに則した読者を対象としたリードジェネレーションを実施します。

調査レポートイメージ



貴社コンテンツイメージ

① プラチナ/ゴールドプラン限定特典

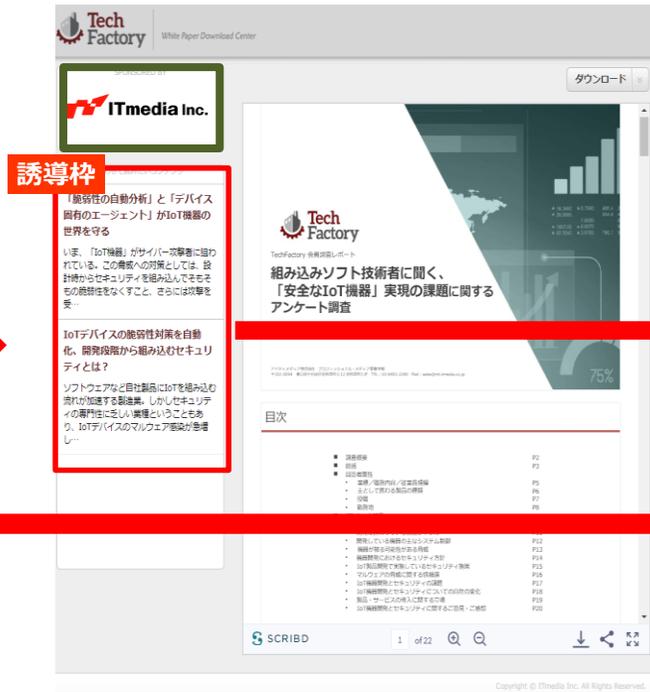
特集ページにロゴ掲載

特集ページ イメージ



調査レポート閲覧ページに
ロゴ掲載&コンテンツ誘導枠

調査レポート イメージ



テーマに関心の高い会員を誘導

貴社コンテンツ イメージ



② プラチナ/ゴールドプラン限定特典 (タイアップ記事に限ります)

MONOist トップページ / 記事ページから、 MONOist 読者を貴社タイアップ記事へ直接誘導



貴社コンテンツイメージ



調査レポートでのリード獲得について

調査レポートを閲覧したテーマに関心の高い会員のリードを獲得

調査レポートを閲覧する=何かしらの課題意識を持って情報収集を行っていると考えられます。特定のプランにご協賛いただくと、PDF版の調査レポートを閲覧した、テーマに関心の高い会員のリード情報をご提供します。

ダウンロード前アンケート

調査レポートをダウンロードする前に、アンケートに答えていただき、リードの付加情報としてご提供させていただきます。

設問例

- 調査資料の閲覧目的
- 製品導入に関わる立場
- 現在抱えている課題

設問は当社にて設定させていただきます。集合型広告企画のため、個別のご要望には対応いたしかねますので、あらかじめご了承下さい。

パーミッションの取得

ダウンロード時に、個人情報提供のパーミッション取得を行います。

パーミッション文は複数社様の連名になります。集合型広告企画のため、個別のカスタマイズには対応いたしかねますので、あらかじめご了承下さい。



PDF版調査レポート ダウンロードページ

PDF版調査レポート

アンケートに回答し、個人情報の提供に同意した会員は、調査レポートをPDFでダウンロードすることができます。



ダウンロードした会員のリード情報



レポートを閲覧した会員のリード情報をご提供いたします。なお、複数社様に協賛いただいた場合は、同じリード情報を全社でシェアする形となります。また、リード情報の納品は、企画終了後となります。

スポンサープラン

ご提供内容	プラチナ	ゴールド	シルバー	備考
①貴社コンテンツ リード獲得保証件数	150件	80件	—	属性はセグメントなしになります。 セグメント指定など、プランのカスタマイズは担当営業までご相談ください。
タイアップ	1本	1本	—	
ホワイトペーパー ※お手持ちのコンテンツのご用意をお願いします	1本	—	—	ホワイトペーパーをお持ちでない場合、別途費用が発生しますが制作プランがありますので、担当営業までご相談ください。
②調査レポートでの リード獲得想定件数	60~100件	60~100件	60~100件	属性はセグメントなしになります。 プランのカスタマイズは対応致しかねます。
③企画特典				
特集ページから 貴社コンテンツへの誘導	○	○	—	
編集メルマガでの特集告知	○	○	○	
提供リード数合計 (①+②)	210~250件	140~180件	60~100件	
スポンサー料金	¥1,900,000 (90万円OFF)	¥1,500,000 (60万円OFF)	¥300,000 (20万円OFF)	(税別、グロス)

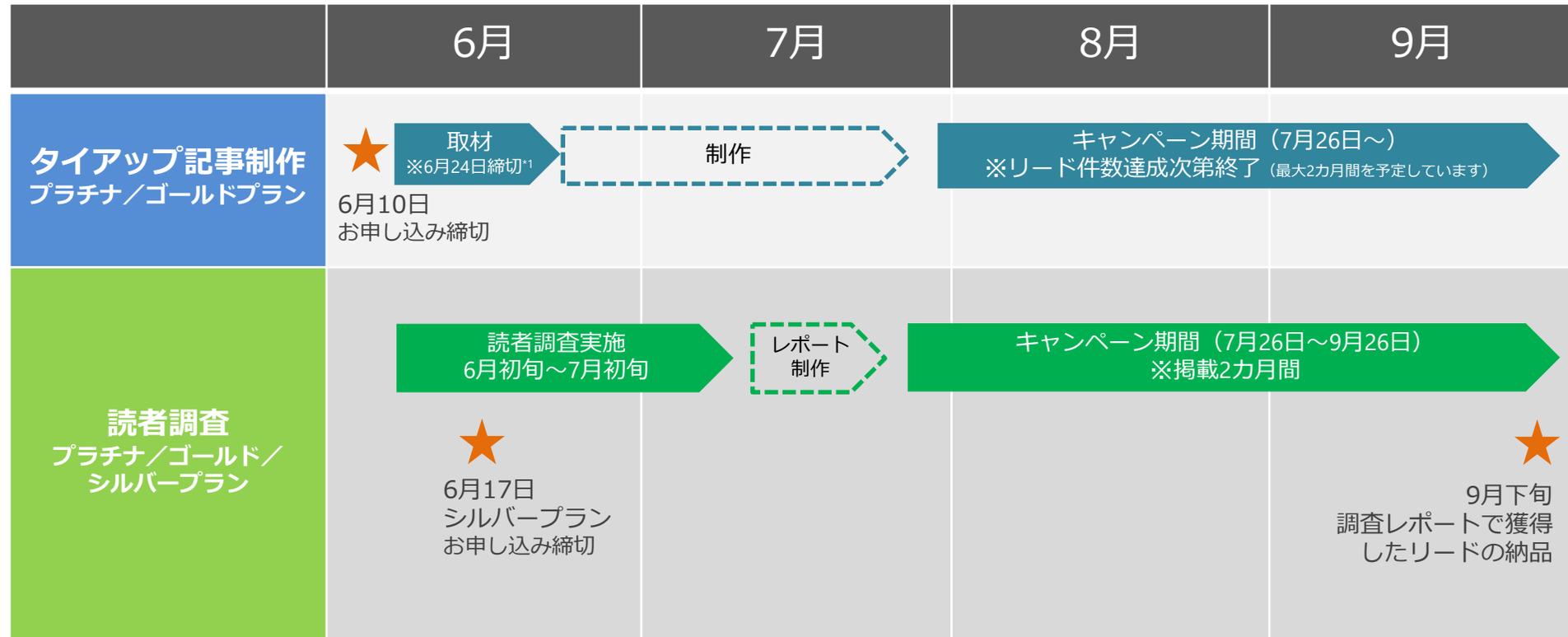
■お申込み締切

プラチナ/ゴールドプラン：2022年6月10日（金）

シルバープラン：2022年6月17日（金）

※ 協賛企業の状況により実施しない可能性があります
 ※ 企画開始後のご協賛も可能ですが、開始時期によってご提供できないメニューがある可能性もございます。

スケジュール



*1 お申し込み締切間近でのご協賛の場合、取材候補日は事前にご連絡お願い致します。6月24日までに取材を行えない場合、7月26日の掲載に間に合わない可能性がありますので、ご了承ください。
 ※ 読者調査の回答状況により、キャンペーン日程が変更になる可能性がありますので、ご了承ください。

参考：製品レポート コンテンツサンプル

編集部によるインタビューや外部アナリストによる解説を交えたコンテンツを制作することで、本企画との連動感を高めることができます。企画／制作は編集部にお任せ下さい。

貴社製品ご担当者様インタビュー

ILD Cloud Service:
設計・解析現場のフロントローディング実践をCAEクラウドが救う

設計・解析現場では、CAEを活用したフロントローディングによる品質の早期作り込みが進められているが、本業である設計・解析業務以外の「システムの管理」が現場担当者に大きな負担を強いているケースも少なくない。この課題を解消する手段として期待されているのが、CAEクラウドサービスの活用だ。

旧来の「コスト削減」や「持たない経営」との強化というより積極的な目的のために、製造工程の上流に位置付けられる設計・解析レーションへの要求レベルがこれまで以上に高ス環境のパフォーマンスや柔軟性に関する課題を十分に覆えたIT人材の不足も相まって、本業である設計・解析業務に集中できる企業は

しかし、現実には目を向けてみると、実際にどうか、その選択に悩む企業も少なくない。事実、品質シミュレーション要求に見合うクラウド設計・解析部門が独自で進めるには仕様のシステム部門主導による、設計・解析者の意向いできまりのクラウド導入だけは絶対に避け

ここでは、多くの設計・解析現場で導入されて紹介するとともに、製造業におけるクラウド

“競争力の強化”がこれまで以上に困難な

しかし、市場変化やニーズの多様化が急速に進む昨今、従来のアプローチだけで競争力を強化することが、これまで以上に難しくなってきた。

SRA ビジネスイノベーション本部 セールスマネージャの高野和吉氏

SRA ビジネスイノベーション本部 セールスマネージャを務める高野和吉氏は、「近年、高性能かつ多機能な製品開発が増え、CAEツールで実行すべき解析モデルが非常に大きくなってきています。その結果、解析時間が長くなり、コストの拡大や納期の長期化を招いています」と指摘する。

高まるクラウドへの期待。CAEクラウドサービスの利点とは？

大規模な解析が必要であれば、計算機（コンピュータ）のパワーを増強する他ない。しかし、どこまでコンピュータリソースを拡張すればよいのか、どうやって適正化すればよいのか、設計・解析者がそれを判断するのは極めて困難だ。また、システム選定やメンテナンス作業などを、設計・解析業務を本業とする現場担当者に任せることが、単なる負担としてだけでなく、重要な製品開発そのものにも影響を及ぼすということを十分に理解しておく必要がある。

参考) 日本アイ・ビー・エム株式会社様

4つのあるある課題を解消する“オンリーワン”な設計環境

「ライセンス費を抑えながらも業務に適した専門機能を欲しい」「CADデータの可用性を高め設計作業を効率化したい」「異議のやりとりの手順を軽減したい」「AIがみんなの2D設計から3D設計へ移行したい」——。そんな設計部門のあるある課題を解決する“オンリーワン”な設計環境とは？

ご自身が所属する、あるいは準の設計部門から、以下のような悩みを聞いたことがないだろうか？

- 業務に適した機能を使いたい専門ツール（オプション機能）などを別途購入する余裕はない。また、時期によりCADオペレーターの数も変動するため、ツールのライセンスが足りなくなるときもあれば、逆に余るときもあり非常にムダを感じる。
- CADデータの可用性を高め、場所にとらわれないが、USBメモリでの運用ではCADデータのわからない心配だ。
- 他部門や協力会社などと頻りに画面のやりとりのように変更されたのかを確認するのが大変だ。
- そろそろ2D設計から3D設計へと移行したくない。できれば、今の2D資産を有効活用

モノづくりを取り巻く環境が大きく変化する中

オートデスク 技術営業本部 デジタルスペシャリストの大塚誠氏

一方、電気制御設計ソリューションの「AutoCAD Electrical」では、電気制御設計に必要なシンボルが用意されている他、回路図の情報から機器配置図を作成する専用機能なども備えている。「いずれも、AutoCAD単体で作図するよりも格段に作業を効率化できる」（大塚氏）という。

さらに、その他のオートデスク製品を含めた本格的な環境として、業界別コレクションも用意。例えば、製造業向けであれば、製品設計、製造プロセス、工場レイアウトなどが可能な「Product Design & Manufacturing Collection」を提供しており、AutoCADはもちろんのこと、「Autodesk Inventor Professional」や「Autodesk Fusion 360」など、豊富なツール群を利用できる。

ご存じの通り、オートデスク製品は全てサブスクリプション方式で提供されているた

参考) オートデスク株式会社様

実施月	テーマ
	4月 研究・開発職のデジタル活用調査
	7月 つながる工場（製造IoT）
2022年度	7月 CAD利用動向調査
	10月 設計製造の品質管理
	1月 モノづくり設計者のワークスタイル

※ テーマ、スケジュールは現時点での予定となり、変更になる場合もございます。
※ 各テーマごとに企画書をご用意しております。詳細は担当営業までお問い合わせ下さい。



お問い合わせ

アイティメディア株式会社

営業本部

Mail : sales@ml.itmedia.co.jp

会員プロフィールや特集予定、お問い合わせはこちら

<http://corp.itmedia.co.jp/ad/>

